

人生の選択肢に

農業

夢は、ワイナリー設立



kondo ヴィンヤードで研修中の
上田さんに話を聞きました

を

全国有数のスマート農業先進地である岩見沢。そこには「新しい農業のかたち」に挑戦する農業者と、その挑戦を支えるさまざまな支援制度、そして、共に未来を切り開く仲間がいます。今月は、岩見沢で新たな一歩を踏み出した3人の新規就農者と市の支援制度を紹介します。

問合先 農業振興課農業経営係 ☎ 35・4467

新規就農への第一歩

20代後半に、岩見沢市や三笠市をはじめとする空知管内でブドウ栽培やワイン醸造に取り組む生産者の方々がつくる、高品質なワインに触れたことが、新規就農を志す大きなきっかけになりました。その土地の風土を生かしてブドウを育て、その魅力を生かして届ける姿に強く惹かれ、「自分もこの地域でブドウを育て、ワイン造りに携わりたい」という思いが芽生えました。その思いを具体的な一歩につなげるため、約10年前に生産者を訪ね、新規就農の事を相談しました。その中で合同会社10R（栗沢町上幌1123）を紹介してもらい、ブドウ栽培・ワイン醸造の担当として入社しました。

入社後は、自社圃場で畑の管理や新植作業に携わり、苗木の植え付けから成木になるまでの一連の栽培管理を経験してきました。こうした現場での経験を積む中で、栽培知識と技術を深め、自らが生産者として地

域に根を張り、ブドウを育てていきたいという思いがより一層強くなりました。

品質と温かさに惹かれて独立を決意

道内各地のブドウが集まる合同会社10Rで働く中で、特に栗沢産ブドウの品質の高さを実感しました。「この土地なら、自分が理想とするブドウを育てられる」と確信したことが、独立を考える大きなきっかけになりました。

また、地域の生産者同士が丸となって支え合う温かいコミュニティにも魅力を感じ、「自分もブドウ栽培を通して地域に貢献したい」という思いが強くなり、独立への決意を固めました。

ワイナリー設立を目指して

将来は、自分のワイナリーを設立し、年間10トン（ワインボトル約1万本分）のブドウを生産することを目標にしています。現在は、kondo ヴィンヤード（栗沢町茂世丑

774）の近藤良介さんの下で独立に向けた研修と準備を進めています。これまで培ってきた酒販店や飲食店との信頼関係を生かし、安定した販路の確保と拡大につなげていきたいです。



ブドウ栽培やワイン造りで最もやりがいを感じるのは、自分たちの努力の結晶であるワインをお客様が楽しんでくれる瞬間です。また、畑でブドウの木が健やかに育っていく姿を見ることも大きな楽しさを感じています。一方で、天候や病害虫な

どの影響を大きく受け、思い通りにならない難しさもあります。そうした自然と向き合いながら、一つ一つの作業を積み重ね、育てていくことが、ブドウ栽培の大きな魅力だと感じています。地域の方々とのつながりを大切に、地域農業の発展にも貢献できるようなワイナリーを目指します。

新規就農を目指す方へ

農業は天候に左右され、決して簡単ではありませんが、真剣に取り組めば取り組むほど、努力が日々の成果として実感でき、やりがいや面白さを感じられる仕事です。

新規就農に向けた主な支援制度

農業者になるには、農地の確保や資金調達、栽培技術、販売先の確保など、さまざまな課題があります。市は、これらの不安要素を解消するため、研修中の支援「新規就農サポート事業」や就農後の支援「新規参入支援事業」により金銭的な支援や、農業関係団体による巡回指導を行っています。

【新規就農サポート事業】

- 就農技術習得支援 月額10万円（2年間）
- 家賃助成支援 家賃の3分の2以内（2年間、上限3万円）など

【新規参入支援事業】

- 経営安定支援 月額10万円（2年間）
 - 農用地貸借料支援 年額貸借料の2分の1以内（5年間、上限20万円）など
- 詳しくは、市ホームページをご覧ください。



ID: 4513

新規就農までの流れ

STEP 1 相談しよう

研修制度や住宅・農地の確保などの疑問にお答えします。

STEP 2 体験・研修しよう

- 短期農業体験研修（2泊3日）
農作業を体験し、農業や農村地域への理解を深めます。
- 見極め体験研修（6カ月）
約10件の農家でさまざまな作物の農作業を行い、自身や受け入れ農家が、農家への適性を判断します。
- 実践的農業研修（2年間）
1年目は指導する農家の下で、2年目は市の研修用園芸ハウスで、種まきから収穫・販売までを行います。

STEP 3 いざ、就農へ

農地や住宅などを、市や農業委員会、JAなどの農業関係団体が一緒に探します。

就農後も安心サポート

定期的な巡回指導で、作物の生育状況を確認し、技術的なアドバイスを行います。また、暮らしに関する相談にも応じ、安心して農業が続けられるよう、市やJAなどがサポートします。



育てて、喜ばれて。それが農業のやりがい。

令和2年新規就農



さがみ farm (栗沢町上幌3137) の
坂上さんに話を聞きました



作物が応えてくれる

一番のやりがいは、自分で育てた野菜を食べて、喜んでもらえる瞬間です。また、手を掛けた分だけ作物がしっかりと育ち、応えてくれるところも、農業の面白さであり、魅力だと感じています。農業が好きなので、大半の作業は楽しく取り組んでいます。その中でも、農作業が忙しい日を無事にやり切ったときや、市場単価が高いときなどは、達成感や嬉しさ、やりがいを感じます。

就農で変わった、暮らしとお金

サラリーマンから自営業に変わったことで、プライベートと仕事の境界が近くなりました。基本的に休みがない生活だからこそ、スケジュールを細かく管理し、自分を律する強い自制心を持つようになりました。特に、農繁期は朝から夜まで休みなく仕事が続くため、体力的にも大変です。さらに大変なのは、その時期の家族への配慮や学校行事などへの参加です。仕事が忙しい中で、どのようにこどもの時間を確保するかが課題となっています。仕事だけを優先するのではなく、家族との時間も大切にしながら、限られた時間の

中で仕事と家庭のバランスを取るよう意識しています。また、自営業になったことで、仕事に掛かる経費など、お金の使い方も以前よりシビアに考えるようになりました。

安定した収量と販路開拓への挑戦

近年は気候変動の影響で、天候による収量の変動が大きくなっているため、収量アップだけでなく、安定した収量の確保にも力を入れています。天候や生育状況をこまめに確認し、種まき時期や肥料の量を調整するなど、その年の気象条件に合わせた栽培管理を行っています。

販路開拓では、これまでの営業経験を生かし、インターネット販売やイオン岩見沢店、直売所など販売先を広げ、お客様が商品を手に入る機会を増やすことで、新たな顧客の獲得につなげています。今後も、消費者のニーズに合わせた新たな販路を開拓していきたいと考えています。

新規就農を目指す方へ

農業を、好きで絶対にやりたい、と思えるなら、まずはしっかりと情報収集をし、市や農家の方に相談することが大切です。また、農業を始めるための開業資金をあらかじめ貯めておくことも大切です。



季節の野菜やトマトジュース、古道具を販売しています。併設のカフェで、旬の味わいとゆったりとした時間をお楽しみください。

自然と寄り添う、農の魅力とやりがい

真夜中を過ぎても終わらないミニトマトの選別作業など、「農業はここまで大変なのか」と途方に暮れることもあります。収穫の時期や天候によっては、休む間もなく作業に追われることもあります。こうした苦勞を一つ一つ乗り越えてこそ、自分が納得できる良い作物をお客様に届けられるのだと信じ、日々農業と向き合っています。そんな中、お客様から直接いただく「ありがと」「おいしかった」という言葉が、大きな励みとなり、日々のやりがいつながっています。また、日中忙しく作業したあと、夕方の静かな圃場で心地良い風を浴びながら作業をする時間は、私たちにとってかけがえない楽しいひとときです。

こだわりの作物を、感動とともに届ける

私たちが力を入れているのは、できる限り環境への負荷を抑え、時間をかけて豊かな土づくりをしていく農法で、試行錯誤を重ねながら実践しています。そうして育てたミニトマトは、甘みとコクがあり、そのまま食べても抜群のおいしさです。土づくりから栽培・収穫まで、一つ一

つの工程にこだわっているからこそ、自信を持ってお客様にお届けしています。また、収穫したミニトマトを自家製の果汁100%トマトジュースとしてカフェで提供しています。とりとした飲み口が好評です。

大きく変わったライフスタイル

就農前と後では、生活のサイクルが大きく変わりました。今では、ミニトマトを中心に、生活そのものが農業を軸に回っています。大変なことも多い仕事ですが、自然と向き合い、自分の手で作物を育て、お客様に届ける。その日々の中に、農業ならではの喜びと充実感を感じています。

新規就農を目指す方へ

先輩農家から学ぶ姿勢、野菜を隔々まで観察できる感性や好奇心を持つこと、心と身体を健康に保つことが大事です。

自然と向き合い、こだわりの持つて作物を育てる農業者の姿から、農業の魅力と誇りを感じることが出来ます。市はこれからも、JAなどの関係機関や地域の農業者の皆さんと連携し、新規就農者を支え、地域農業の未来を担う人材の確保・育成に取り組んでいきます。

令和5年新規就農



なま 瓜農園 (栗沢町宮村214) の
能田さんに話を聞きました



手間も苦勞も、すべては「おいしい」のために。